

資料紹介

# 「蘭方」医学資料解題②

福田 舞子

## はじめに

本稿は、『蘭方』医学資料解題①（『北の丸』五七号、二〇二五年）に引き続き、国立公文書館（以下、当館）所蔵内閣文庫に収められた西洋医学に関する資料について、既刊目録およびデジタルアーカイブ掲載の情報の補完を目指すものである。調査対象の選定基準、解題作成にあたって留意した情報等は、『蘭方』医学資料解題①を参照されたい。

本稿では、『改訂 内閣文庫国書分類目録』（以下、『国書分類目録』）の「医学」に分類された資料のうち、「蘭方」の「(二) 臨床医学」に収録された資料を取り扱う。

## 【凡例】

・蔵書印をはじめとした収蔵経緯を示す情報、特に、『国書分類目録』に掲載されていない情報を重視し、資料概要は必要最低限に留めるよう努めた。

・表紙に貼付された蔵書票等は、後世に付け替え可能であるため、書誌情報として重視されないことも多い。しかし、内閣文庫中には、明治政府の省局の蔵書票の上に貼り重ねる形で新たな蔵書票が貼付されている資

料も多い。そのため、収蔵経緯を追うにあたって表紙から得られる情報の重要性は高いと考え、採録した。なお、現在も使用している「内閣文庫」の蔵書票は採録対象から除外した。

・資料の掲載順は『国書分類目録』に則った。『国書分類目録』への掲載順と、令和八年時点で付与されている資料請求番号順は必ずしも一致しないが、理由は未詳。

・各資料冒頭に記した表題および旧蔵者は『国書分類目録』の表記に準じた。特に断りの無い限り、各資料の概要は以下の参考文献に依る。

『改訂増補 内閣文庫蔵書印譜』国立公文書館、一九六九年初版発行、一九八一年改訂版発行。

国立公文書館編『内閣文庫百年史 増補版』汲古書院、一九八六年。

日蘭学会編『洋学史事典』雄松堂出版、一九八四年。

福井保『内閣文庫本考証』青裳堂書店、二〇一六年。

洋学史学会監修、青木歳幸ほか編『洋学史研究事典』思文閣出版、二〇二二年。

・冊次は、○囲みの数字で表した。

・●丁のオモテは●オと、●丁のウラは●ウと表した。丁数の表記については、資料に丁番号の記載がある場合は資料に従い、記載がない場合は

丁数を数え補った。

・虫損や破損により判読不能な文字は□、資料に損傷はないが解読不能な文字は■、判読不能な文字数が不明な場合は「…」で表した。

・改行は／で表した。

・【一】～【三九】の解題は、『蘭方』医学資料解題①『北の丸』五七号)に掲載した。

【四〇】西説内科撰要 九冊(全一八巻のうち九巻) 紅葉山文庫旧蔵

(請求番号 子二五九・〇〇〇八)

原著は、オランダの医師ゴルテル (Johannes de Gorter, 1689-1762) の著した内科書 *Gezuiwer de Geneeskunst of Kort Onderwys der Meeste Inwendige Ziekten* を、津山藩医宇田川玄随(槐園 一七五五—一七九七)が翻訳し、寛政五年(一七九三)から文化七年(二八一〇)にかけて出版したもの。日本初の西洋内科学の翻訳書として知られる。全一八巻。玄随は翻訳を成したものの、刊行途中の寛政九年に死去。養子の玄真(榛斎、一七六九—一八三四)が遺志を継いで刊行した。訳者玄随による注釈が多数記されている。本書の刊行は、外科学中心であった日本の西洋医学に内科系の学問を加えて発展する画期となった。

印記「秘閣図書之章」は、紅葉山文庫旧蔵書に対し、明治維新後に捺されたものである。同印は、明治五年(一八七二)から翌六年の皇居炎上による印焼失まで使用された印、その後新刻され同一二年二月まで使用された印、その後同一九年二月に「日本政府図書」の印が新刻されるまで用いられた印、の三種類が確認されている。本書の印記は、明治二年から同一九年の間に使用された印である。印記「日本政府図書」は、明治一八

年一二月の内閣制度発足により太政官文庫が内閣文庫に改称されたことに伴い、翌一九年二月に作成された。先述の「秘閣図書之章」はこれにより廃止となる。「日本政府図書」の印は、昭和七年(一九三二)まで用いられた。

当館において、「子」からはじまる請求番号は、本来、漢籍の子の部に分類される資料に付される番号である。本書に「子」からはじまる請求番号が付された理由は未詳。内閣記録局作成の『和書台帳』八(請求番号 平23公文〇一一二九一〇〇)を確認したところ、本書は「番号 三六三二一〇」として記録されており、分類については「函架 子二五九」類古医(六)二〇「備考 貴 仮子二五九」と記載されていた。台帳に記録された内容の前後関係から、明治二年一〇月二日の記録分と推察される。同日付の記録分は多く、大規模な調査・整理が行われた日であったと推察される。また、『内閣文庫図書仮名類別目録和書門』(明治三年一月発行)、『内閣文庫図書仮名類別目録漢書門』(同年三月発行)、『内閣文庫和書仮名類別追加目録』(同三年四月発行)を併せて確認したところ、本書は収録されていなかった。

以上のことから、紅葉山文庫より引き継がれ、明治二年に内閣文庫の所蔵資料として整理されていたことがわかるが、和書でありながら「子」に分類され、その後も仮番号から変更されなかった理由や、同三年の『類別目録』および同三五年の『追加目録』に収録されなかった理由は未詳である。

・書誌情報

「外題」①②③題箋「内科撰要 卷之一く三」、④題箋「内科撰要 諸氣・黄疸 卷之四」、⑤題箋「内科撰要 胆汁敗黒・煩悶・疝・水腫 卷之五」、⑥題箋「内科撰要 昏睡・不寐・卒厥 卷之六」、⑦題箋「内

科撰要 頭眩眩冒・精神錯乱 卷之七、⑧題箋「内科撰要 癩・頭痛・喉風 卷之八」、⑨題箋「内科撰要 咳嗽・吐血 卷之九」

〔内題〕①～⑨一才「西説内科撰要卷一～九」

〔著者〕①一才「遠西 玉函涅斯埜我爾德兒 著／日本 津山 宇田川

玄随 訳／医官法眼 桂川甫周国瑞 閱」

〔法量〕二七・二八・二九

〔墨付丁数〕①四一、②三〇、③二五、④三〇、⑤二九、⑥二四、⑦

二三、⑧三四、⑨二九

〔表紙〕朽葉色刷毛目蜀江錦艶出し表紙

〔刊記〕⑨裏表紙見返し「宇田川玄随著／槐園藏板／寛政九丁巳歳季夏

／東都書林 弘所 室町二丁目 須原屋市兵衛」

〔印記〕①序一才「秘閣図書之章」「日本政府図書」

〔蔵書票等〕表紙蔵書票「和書／假子二五九／三六三二〇号／共九」（假

子二五九）のみ朱書き）

〔刊写〕刊

〔その他〕卷十～十八を欠く。⑨後付「宇槐園著述書目」。同書目によると「西説内科撰要 全十八冊」のうち卷一～九は「出来」、卷十～十八は「続刊」。

【四一】増補重訂内科撰要 一八卷六冊 内務省旧蔵

（請求番号 一九五・〇二九七）

宇田川玄随訳『西説内科撰要』に玄随の養子宇田川玄真と、玄随の弟子藤井方亭（一七七八―一八四五）が重訂・増補を施し、文政五年（一八三二）に出版したもの『西説内科撰要』の概要については【四〇】を参照のこと。本書によって内容が一段と向上し、活用しやすいものとなった。

本書には、「衛生局」の蔵書票が貼付されている。衛生局は、明治七年八月に一般衛生や医術開業免許等の規則を定めた医制が發布されたことに伴い、翌八年七月、医事行政を担う部局として内務省に設けられた。昭和一三年一月の厚生省設立に伴い衛生局は厚生省の所管となった（新村拓編『日本医療史』）。衛生局は、同二年一月、衛生局に代えて公衆保健局・医務局・予防局の三局が置かれるまで存立した（厚生省五十年史編集委員会編『厚生省五十年史（記述篇）』）。

印記「大日本帝国図書印」は、内務省図書局の印として、明治九年八月から、同一五年六月に「図書局文庫」の印が新刻されるまで用いられた。内務省図書局の職掌には、出版許可や納本、保存も含まれる。本書は、印記「明治十二年購求」が確認されるため、購入本であることがわかる。

蔵書票および印記から、内務省図書局が本書購入の続きを行って収納し、その後、同局衛生局にて保管されたものと推察される。

・書誌情報

〔外題〕①～⑥題箋「増補重訂内科撰要 卷一～六」

〔内題〕①～⑥一才「増補重訂内科撰要卷一～十六」

〔著者〕①一才「遠西 玉函涅斯埜我爾德兒 著／津山 宇田川玄随晋

訳・男女玄真璘 校註／加賀 藤井方亭俊 増訳」

〔法量〕二五〇×一七・八糎

〔墨付丁数〕①八五、②八七、③七七、④八〇、⑤八五、⑥七八

〔表紙〕緑色蜀江錦艶出し表紙

〔刊記〕①扉「槐園宇田川先生著／増補重訂内科撰要／風雲堂蔵版」、凡

例四才「文政五年壬午仲秋 宇田川玄真璘識」

〔印記〕①序一才「明治十二年購求」「大日本帝国図書印」「日本政府図書

「蔵書票等」表紙蔵書票「内務省図書／第三四五番／部 号／六冊」  
「衛生局／第拾二号／波ノ筐」 「和書門／類／二二七二七号／函架／六冊」

〔刊写〕刊

〔その他〕①～④版心「風雲堂藏」。①巻一のウ頭注朱書きあり、④巻十の十四才頭注朱書きあり、⑤巻十四の十二才付札挟み込み。各冊冒頭に、所収の三巻分をまとめた目録あり。⑥裏表紙見返し「書壳 江戸浅草茅町二丁目 須原屋伊人／浪華心斎橋通北久太郎町 河内屋儀助／同心斎橋通唐物町 河内屋太助／京三条寺町西入町 丸屋 善兵衛」

【四二】泰西熱病論 七巻六冊 医学館旧蔵

(請求番号 一九五・〇三〇二)

イギリスの医師ハクスム (John Huxham, 1692-1768) による『熱病論』のオランダ語訳版を、吉田長淑(成徳、一七七九—一八二四)が文化一一年に翻訳した書。各種熱病について翻訳を付し、また、「成徳案」として長淑自らの意見、注釈を記している。

印記「医学図書」「躋寿殿書籍記」より、多紀氏によって開かれ寛政三年に幕府所管となった医学館に収納されていたことがわかる。多紀氏は漢方医学を以て代々奥医師として幕府に仕え、多紀氏の家塾躋寿館にはじまる幕府医学館もまた、漢方医の育成と漢方医学の研鑽のための組織として機能した。当館所蔵の西洋医学関連資料のなかに多紀氏および医学館の蔵書印が捺された例があることは、「蘭方」のうち「(一)基礎医学」にも確認された(『蘭方』医学資料解題①)、『北の丸』五七号)。多紀氏が、漢方医学を本務としつつも、漢洋問わず新しい医療について知見を深めよう

としていた様子をうかがわせる。

・書誌情報

〔外題〕①～⑥題箋「泰西熱病論 一～七」

〔内題〕①～⑥一才「泰西熱病論卷一～五、七」

〔著者〕①一才「泰西 玉函夫古撒謨 著／加賀医官 吉田成徳直心

訳／門人 笹山侍医足立世茂松父 沼津侍医程田國道玄悦 長府侍

医 松岡土藏道遠 校」

〔法量〕二六・六×一八・〇糎

〔墨付丁数〕①五一、②四一、③二〇、④三六、⑤四九、⑥六一

〔表紙〕黄檗色象の丸文に唐草型押し表紙

〔刊記〕①扉「文化甲戌孟冬鐫／駒谷吉田先生翻訳／泰西熱病論／版存

蘭馨堂書庫」、⑥後付「文化十一年甲戌冬十月刻成／発行書林 京

都堀河高辻上ル所 植村藤右衛門／大坂心斎橋北久太郎町 河内屋

喜兵衛／江戸日本橋通四丁目 鴨伊兵衛／同下谷池端仲町 須原屋

伊八」

〔印記〕①表紙「医学図書」、扉に版元印、序一才「医学図書」「躋寿殿

書籍記」、自序三才「成徳」「直心氏号駒谷」

〔蔵書票等〕①表紙蔵書票「医書十ノ一」「和書門／類／二七〇六七

号／七五函／八架／六冊」

〔刊写〕刊

〔その他〕版心「蘭馨堂藏」。⑤巻五・六合冊。⑥後付「駒谷吉田先生著述目録」。

【四三】泰西熱病論 六卷五冊 大学校・大学旧蔵

(請求番号 一九五・〇三〇一)

資料の概要は、【四二】を参照のこと。

印記「大学蔵書」は、明治二年六月に昌平坂学問所の蔵書が大学校の所管となつてから同四年七月に大学を廃止し文部省が設置されるまでの間に用いられたものである。印記「書籍館印」は、同五年八月に文部省が昌平坂学問所跡に開き、同七年七月に廃止された書籍館の蔵書に用いられた。また、印記「浅草文庫」は、書籍館廃止に伴い、その蔵書を移して浅草に設けた官立文庫である浅草文庫の蔵書であつたことを示す。浅草文庫は同一四年五月に閉鎖され、蔵書の大部分は内務省所管を経て、内閣文庫に収蔵された。

印記「大学蔵書」「書籍館印」「浅草文庫」からわかる本書の収蔵経緯をまとめると、確認される最も古い収蔵者は大学校であり、収集時期は不明。明治四年七月の大学校廃止後、同五年八月以降は書籍館に収められ、同七年七月の書籍館廃止に伴い浅草文庫に収蔵。同一四年五月の浅草文庫閉鎖後は、内務省所管を経て内閣文庫へと収蔵されたものと考えられる。大学校廃止から書籍館開設までのおよそ二年間の収蔵場所は詳らかでないものの、それ以外は明確に追うことができる資料と言えよう。

なお、【四二】には①巻頭に全巻分の「目録」一丁があるが、本書には無い。また、【四二】には巻七(附録)も含むが、本書は巻六までで附録を含まない。

・書誌情報

〔外題〕①⑤題箋「泰西熱病論 一〇五・六」

〔内題〕①⑤一才「泰西熱病論卷一〇五」

〔著者〕①一才「泰西 玉函夫古撒謨 著／加賀医官 吉田成徳直心

訳／門人 笹山侍医足立世茂松父 沼津侍医程田國道玄悦 長府侍医 松岡士藏道遠 校」

〔法量〕二六・七×一七・九釐

〔墨付丁数〕①五〇、②四一、③二〇、④二六、⑤四九

〔表紙〕黄檗色象の丸文に唐草型押し表紙

〔刊記〕①扉「文化甲戌孟冬鐫／駒谷吉田先生翻訳／泰西熱病論／版存 蘭馨堂書庫」

〔印記〕①扉に版元印、序一才「浅草文庫」「書籍館印」「大学蔵書」「日 本政府図書、自序三才「成徳」「直心氏号駒谷」

〔蔵書票等〕①表紙蔵書票「訳書 二ノ三」「和書門／類／四三二三三 号／一三六函／一〇架／五冊」

〔刊写〕刊

〔その他〕版心「蘭馨堂蔵」。⑤巻五・六合冊。巻七「附録」篇を欠く。①表紙墨書「訳」：「共六本」

【四四】医療正始 二四卷八冊 内務省旧蔵

(請求番号 一九五・〇二八二)

全八編二四冊。天保六年(一八三五)一二月の初編出版から安政五年(一八五八)春の第八編出版まで、およそ三年を要して完結。原著はドイツ人ヒスコフ (Iganuz R. Bischoff, 1784-1850)、蘭訳はオランダ人エルシッキ (Cornelis van Elдик, 1791-1857)。日本語版の著訳者は伊東玄朴(一八〇〇—一八七一)と表記されているが、実際には箕作阮甫(一七九九—一八六三)が二〇余年を費やして訳したものとされる。

印記「明治十二年購求」「大日本帝国図書印」「日本政府図書」から、本書は明治十二年に購入され、内務省図書局に収められ、のちに内閣文庫に

引き継がれたものと考えられる。

・書誌情報

〔外題〕①⑧題箋「医療正始 附医院類案 一〇八」

〔内題〕①⑧一才「医療正始卷之一〇二二」

〔著者〕①一才「独乙 昆斯骨夫／和蘭 漢。越而実幾 訳／西肥 伊

東淵玄朴 重訳」

〔法量〕二五・九×二八・二糶

〔墨付丁数〕①七八、②七六、③七八、④八五、⑤七八、⑥九三、⑦

一〇一、⑧七九

〔表紙〕濃緑色布目地に小葵艶出し表紙

〔刊記〕①扉「天保六年孟冬開雕／冲斎伊東先生訳本／医療正始附医院

類案／象先堂藏 青藜角発兌」、②扉「天保七年孟夏開雕／冲斎伊

東先生訳本／医療正始附医院類案／象先堂藏 青藜閣発兌」、③④

扉「天保九年孟夏開雕／冲斎伊東先生訳本／医療正始 附医院類案

／象先堂藏 青藜閣発兌」、⑤扉「天保十一年仲春開雕／冲斎伊東

先生訳本／医療正始附医院類案／象先堂藏 青藜閣発兌」、⑥扉「弘

化三年初秋開雕／冲斎伊東先生訳本／医療正始 附医院類案／象先

堂藏 青藜閣発兌」、⑦扉「弘化四年丁未開帳／冲斎伊東先生訳本

／医療正始附医院類案／象先堂藏 青藜閣発兌」、⑧扉「安政五年

立春開雕／冲斎伊東先生訳本／医療正始附医院類案／象先堂藏 青

藜閣発兌」、裏表紙見返し「伊東玄朴訳本／安政五戊午年初冬／発

行書林 江戸浅草茅町 須原屋伊八」

〔印記〕①扉に版元印、①⑧「初篇」く「八篇」、①標目一才「明治

十二年購求」「日本政府図書」「大日本帝国図書印」

〔蔵書票等〕①表紙蔵書票「内務省図書／第三三四七番／部 号／八  
冊」「…」冊「衛生局／第拾弍号／波ノ筐（「…」冊）」の上に重  
ねる形で貼付されている」「和書門／類／二二六二九号／函／  
架／八冊」

〔刊写〕刊

〔その他〕版心「象先堂藏」。各冊に三卷ずつ収録。各冊冒頭に、収録  
の三卷分まとめたの標目あり。不審紙あり。①⑦裏表紙見返し「伊  
東玄朴訳本／書完 京都寺町通松原下ル 勝村治右衛門／大坂心齋  
橋安堂町 秋田屋太右衛門／江戸日本橋南一丁目 須原屋茂兵衛／  
同 浅草茅町二丁目 須原屋伊八発兌」、⑧裏表紙見返し「伊東玄  
朴訳本／安政五戊午年初冬／発行書林 江戸浅草茅町 須原屋伊  
八」

〔四五〕西医今日方 六冊 昌平坂学問所旧藏

（請求番号 一九五・〇二八八）

蘭方医藤林普山（一七八一―一八三六）訳述。オランダの薬局方や薬の  
製法に関する蘭書を参照し、効能や製法を薬剤ごとにまとめた書。全五卷  
六冊。嘉永元年（一八四八）刊行。

本書には、印記「番外書冊」「昌平坂」が確認される。いずれも、昌平坂  
学問所の蔵書に捺されたものである。「番外書冊」は、同所蔵書のなかでも、  
慶長年間（一五九六―一六一四）以後の撰述のうち地誌・記録以外の国書  
の多くに捺された印である。『国書分類目録』『医学』のうち「蘭方」に分  
類された書には、昌平坂学問所の番外書冊として収納された事例が散見さ  
れる（前掲拙稿）。本書もそのひとつ。

その他の印記から、明治七年の浅草文庫開設後に同文庫に收藏。同一四

年五月の浅草文庫閉鎖後、内務省所管を経て内閣文庫へと收藏されたものと考えられる。

・書誌情報

〔外題〕①②③表紙題箋「西医今日方 一〇六」

〔内題〕①②③一才「西医今日方卷一〇五・五下」

〔著者〕①一才「平安 普山藤林先生訳定／男 藤林守元泰作 校」

〔法量〕二六・四×一八・二糶

〔墨付丁数〕①四四、②四六、③四三、④五五、⑤四四、⑥三八

〔表紙〕焦茶色蜀江錦艶出し表紙

〔刊記〕①扉「嘉永元年孟夏新鐫／普山藤林先生著／西医今日方／玉川堂藏」

〔印記〕①表紙墨印「番外書冊、序一才」浅草文庫「日本政府図書」内

閣文庫「墨印」昌平坂」

〔蔵書票等〕①表紙蔵書票「和書門／類／二四九八三号／六七函／

一一架／六冊（主務消印）」「医療撰養（主務消印）」「医書」……

〔刊写〕刊

〔その他〕版心「玉川堂藏」。⑤は「卷五」四十二丁まで収録。⑥は「卷

五」四十二丁よりはじまる。

【四六】濟生備考 二冊 昌平坂学問所旧蔵

（請求番号 一九五・〇二九八）

蘭学者杉田成卿（二八一七—一八五九）訳述。卷一には牛痘種痘の方法を記した「牛痘略説」が、卷二にはエーテル麻酔の方法や治験例などを記した「亜的耳（エーテル）吸法試説」が収録されている。「牛痘略説」は、

ドイツのモスト (Georg Friedrich Most, 1794-1832) が著した牛痘種痘に関する書の蘭訳本 *Encyclopedisch woordenboek der practische genees-, heal-, en verloskunde*. 1838. から抄訳したもの。「亜的耳吸法試説」は、ドイツのシエレンシッゲル (Joseph Schlesinger, 1800-) によるエーテル麻酔の方法や治験例などを記した書を、オランダのサルロイス (J. Surlijs) が蘭訳した *Over den invloed der inademing van den zwaavelaether op menschen en dieren*, 1847. を邦訳したもの。エーテル麻酔法を日本語で紹介したはじめての書として知られる。宗田「濟生備考」解説（『江戸科学古典叢書』二九巻）。

印記から、昌平坂学問所の番外書冊として収められ、明治七年の浅草文庫設立に伴い同文庫へ、のちに内閣文庫に引き継がれたと考えられる。

・書誌情報

〔外題〕①②表紙題箋「濟生備考 一・二」

〔内題〕①②一才「濟生備考卷一・二」

〔著者〕①一才「若狭 杉田信成卿 纂述」

〔法量〕二六・〇×一八・一糶

〔墨付丁数〕①三三、②四七

〔表紙〕緑色出繋ぎ地花文艶出し表紙

〔刊記〕①扉「嘉永三年庚戌晩春新彫／杉田成卿纂述／濟生備考／天真

楼蔵版」、②裏表紙見返し「嘉永三年庚戌三月刻成／発行書林 京

都寺町松原下ル町 勝村治右衛門／大坂心齋橋北江二町目 秋田屋

太右衛門／江戸本町三町目北側 和泉屋善兵衛／江戸浅草茅町二町

目 須原屋伊八」

〔印記〕①表紙墨書「番外書冊」、扉に魁星印・版元印・「東都書売／浅

草御門外／茅町二丁目／須原屋伊八／製本発兌記」、序一オ「日本政府図書」、「浅草文庫」

「蔵書票等」①表紙蔵書票「和書門／類／二四九五八号／六七函／

一一架／二冊「医書「…」「医療撰養（ほぼ剥落している）」

「刊写」刊

「その他」版心「天真楼藏板」。②裏表紙見返し「杉田先生著述刊行書目」。

【四七】濟生三方 二冊 内務省旧蔵

（請求番号 一九五・〇二九九）

原著は、ドイツ人医師フーフェラント (Christoph Wilhelm Hufeland,

1762-1836) が一八三八年に著した内科書 Enchiridion medicum. の、

オランダ人医師ハーヘマン (H. H. Hageman Jr., 1813-1850) による

蘭訳版。本書は、ハーヘマンによる蘭訳版から杉田成卿が抄訳したもの。

印記「明治十二年購求」「大日本帝国図書印」「日本政府図書」から、本

書は明治一二年に購入され、内務省図書局に収められ、のちに内閣文庫に引き継がれたものと考えられる。

なお、「扉に刷られた題「濟生三方 医戒附刻」が示す通り、『濟生三方』

には、本来、上・中・下巻に加えてフーフェラントが医師の守るべき倫理

を説いた『医戒』が附刻本としてある。当館に収蔵されている『医戒』は、『国

書分類目録』『医学』のうち「総記 附史伝」に収蔵された二点。それら

二点の『医戒』（請求番号一九五・〇二六三、および一九五・〇二六四）

を確認したところ、請求番号一九五・〇二六三に本書と同様の印記が確認

された。なお、印記は同一であるが、蔵書票「和書門」に記載された資料

番号は異なる。このことから、内務省に収納された当時は一揃えのものとして扱われていたが、太政官文庫で分類した際に『濟生三方』三冊と『医

戒』一冊とに分かたれたものと推察される。

・書誌情報

「外題」①～③表紙題箋「濟生三方 上・中・下」

「内題」①～③一オ「濟生三方卷上・中・下」

「著者」①一オ「若狭 杉田信成卿 訳」

「法量」二五・八×一八・二糶

「墨付丁数」①三〇、②五八、③五四

「表紙」縹色飛雲地天使の丸型押し表紙

「刊記」①扉「嘉永二年己酉晚春新刻／杉田成卿訳／濟生三方 医戒附

刻／天真楼藏板」

「印記」①扉に魁星印・版元印、前付一オ「明治十二年購求」「大日本

帝国図書印」「日本政府図書」

「蔵書票等」①表紙蔵書票「衛生局／第廿三号／波ノ筐」「和書門／類

／二七三三号／函／架／三冊」

「刊写」刊

「その他」版心「天真楼藏板」。②朱筆傍点あり、③不審紙あり。

【四八】濟生三方 三冊 昌平坂学問所

（請求番号 一九五・〇二〇〇）

資料の概要については【四七】を参照のこと。

印記「番外書冊」「昌平坂」から、昌平坂学問所の番外書冊として収め

られたことがわかる。また、印記「新刊納本」は、天保一三年に幕府が敷

いた新刊書の検閲制度によって昌平坂学問所に提出された書であること

を、印記「安政戊午」は安政五年に同所に収蔵されたことを示す。印記「浅

草文庫」から、のちに浅草文庫へ、その後内閣文庫へと引き継がれたこと

がわかる。

なお、【四七】同様、扉に「済生三方 医戒附刻」とあるにも関わらず、『医戒』が収録されていない。『国書分類目録』『医学』のうち「総記 附史伝」に分類された『医戒』（請求番号一九五・〇二六四）が、本書の附刻本に相当すると推察される。しかし、印記「番外書冊」「浅草文庫」「日本政府図書」、および表紙蔵書票「医療撰養」「医書 五ノ一」は本書および附刻本『医戒』に共通しているが、印記「安政戊午」「昌平坂」「新刊納本」は本書にしか捺されていない。この相違が生じた理由は未詳。

・書誌情報

〔外題〕①③表紙題箋「済生三方 上・中・下」

〔内題〕①③一才「済生三方巻上・中・下」

〔著者〕①一才「若狭 杉田信成卿 訳」

〔法量〕二六・〇×一八・二糶

〔墨付丁数〕①三〇、②五八、③五四

〔表紙〕縹色巻雲艶出し表紙

〔刊記〕①扉「嘉永二年己酉晚春新刻／杉田成卿訳／済生三方 医戒附刻／天真楼藏板」

〔印記〕①表紙墨印「番外書冊」、扉に魁星印・版元印、序一才「日本政府図書」、凡例一才「浅草文庫」、廿一ウ「安政戊午」・墨印「昌平坂」、②③表紙墨印「新刊納本」

〔蔵書票等〕表紙蔵書票「和書門／類／四三二一九号／一三六函／九架／三冊」「医療撰養」「医書 立五ノ一」

〔刊写〕刊

〔その他〕版心「天真楼藏板」。

【四九】西医略論 四冊 教部省旧蔵

（請求番号 一九五・〇二七七）

イギリスの宣教医ホブソン (Benjamin Hobson, 1816-1873) (中国名は合信または霍浦孫) が、中国における医療伝道活動の一環として執筆した解剖書『全体新論』を発展的に継承し、治療法・診断法を略述した書。咸豊七年（一八五七）に上海で刊行。本書は、安政五年に作成された和刻版である。

印記「宣教師」は、明治二年一〇月、神道布教のため神祇官（明治四年八月神祇省と改称）に設けられた部局である宣教師で用いられた印である。同五年三月に神祇省が教部省と改称された折、宣教師は廃止された。以降、教部省が廃止され、教部省が担ってきた職務内容が新設の内務省杜寺局に移行する同一〇年一月まで、「教部省文庫印」が用いられた。「図書局文庫」は内務省図書局の蔵書印として明治一五年に作成され、同一八年の図書局廃止まで使用された。

以上より、本資料は明治一～五年の間に神祇官宣教師に収められ、宣教師廃止とともに教部省の蔵書とされ、同一〇年の教部省廃止に伴い内務省に収蔵され、同一八年一二月に内閣制度発足に伴い設けられた内閣文庫に引き継がれたものと考えられる。

・書誌情報

〔外題〕①表紙題箋「西医略論 上編 全」、②「西医略論 中編 上」、

③「西医略論 中編 下」、④「西医略論 下編 全」

〔内題〕①②④一才「西医略論巻上・中・下」

〔著者〕①一才「英国医士合信氏著 江齋管茂材同撰」

〔法量〕二五・四×一七・三糶

〔墨付丁数〕①六二、②四九、③六三、④三三

〔表紙〕黄檗色菊唐草に花喰鳥型押し表紙

〔刊記〕①扉「安政戊午晚冬新刊 英国医士 合信氏著／西医略論／桃

樹園蔵梓」、③④裏表紙見返し「桃樹園三宅蔵板／老皂館 東都江

戸 萬屋兵四郎 発行」

〔印記〕①扉「宣教師」「教部省文庫印」「図書局文庫」「三宅氏記」、序

一才「日本政府図書」

〔蔵書票等〕①表紙蔵書票「漢書門／類／五六九四号／一二函／一四

架／四冊」「共四本／百廿八」

〔刊写〕刊

〔その他〕③に内題はなく、巻中の続きからはじまる。版心に表記され

た丁数によると③には、巻中の四十一〜九十四（衍丁あり（九十四

丁重複）および図版が収録されている。巻末に附属の図版（四丁

分）の版心に記載された丁数は、前から順に「九十四」「九十四 甲」

「九十四 乙」「九十四 丙」。

【五〇】内科新説 二巻三冊 教部省旧蔵

（請求番号 一九五・〇二九六）

イギリスの宣教医ホブソンが、中国における医療伝道活動の一環として、

中国語で著した西洋内科書。咸豊八年に上海で刊行された。本書は、安政

六年に刊行された和刻版。

印記から、明治二〜五年の間に神祇官宣教師に収められ、宣教師廃止と

ともに教部省の蔵書とされ、教部省廃止に伴い内務省に収蔵され、内閣制

度発足に伴い内閣文庫に引き継がれたと考えられる。

・書誌情報

〔外題〕①〜③表紙題箋「外科新説 上・中・下」

〔内題〕①一才「内科新説卷上」、③一才「内科新説下」

〔著者〕①③一才「英国医士合信氏著 江甯管茂材同撰」

〔法量〕二五・三×一七・二糎

〔墨付丁数〕①四一、②三八、③四六

〔表紙〕黄檗色菊唐草に花喰鳥型押し表紙

〔刊記〕①扉「安政己未初冬新刊 英国医士 合信氏著／内科新説／桃

樹園蔵梓」、③裏表紙見返し「桃樹園三宅氏蔵板／老皂館 東都江

戸 萬屋兵四郎 発行」

〔印記〕①扉「宣教師」「教部省文庫印」「図書局文庫」「三宅氏記」、序

一才「日本政府図書」

〔蔵書票等〕表紙蔵書票「漢書門／類／五六九二号／一二函／一四架

／三冊」「共三本／百廿八」

〔刊写〕刊

〔その他〕②に内題はなく、巻上の続きからはじまる。版心によると②

には、巻上の三十五〜七十二丁が収録されている。上中下三冊に分

かれてはいるが、内容は上下二冊分。

【五一】紅毛膏藥方 一冊

（請求番号 一九五・〇〇四七）

膏藥の効能や製法をまとめた書。蘭方医学で用いる膏藥と推察されるが、

序、凡例等はなく、参照した蘭書や編纂者については未詳。

印記から、明治七年設立の浅草文庫に収められ、のちに内閣文庫に引き

継がれたことがわかる。

・書誌情報

〔外題〕表紙題箋に墨書「紅毛膏藥方」

〔内題〕記載なし

〔著者〕記載なし

〔法量〕二七・〇×一九・二糎

〔墨付丁数〕二二九

〔表紙〕海松色無地表紙

〔印記〕一才「浅草文庫」「日本政府図書」

〔蔵書票等〕表紙蔵書票「和書門／類／二四九七九号／六七函／一

架／一冊」「医書四ノ三」

〔刊写〕写

〔その他〕表紙見返しの紙背に墨書「阿蘭陀薬油書付」とあるのが透けて読める。現在の表紙をつける前の表題と思われる。

【五二】和蘭沱仕掛之書 三冊 医学館旧蔵

(請求番号 一九五・〇三〇三)

本書は、皮膚等の身体の外側に生じる疾患の治療法について、蘭書から邦訳し、適宜読みを補ったものである。凡例によると、蘭方医学の教授と普及を目的に邦訳された。原著や翻訳者名については未詳。

印記「多紀氏蔵書印」より、【四二】同様、多紀家が蘭医学にも注目し、

治療方を取り入れようと学んでいたことを示す資料といえる。「多紀氏蔵書印」の使用年代は明確でないが、併用印や書写年代から勘案して多紀元簡(二七五五―一八二〇)以後に用いられた印と推察されている。

・書誌情報

〔外題〕①～③表紙墨書打付「阿蘭陀仕掛之書 一～三」

〔内題〕①一才「阿蘭陀仕掛之書」

〔著者〕記載なし

〔法量〕一八・九×一五・七糎

〔墨付丁数〕①二〇、②二二、③二八

〔表紙〕焦茶色無地表紙

〔刊記〕記載なし

〔印記〕①一才「多紀氏蔵書印」「日本政府図書」

〔蔵書票等〕表紙蔵書票「和書門／類／二七〇二四号／七〇函／七架

／三冊」

〔刊写〕写

【五三】外科集成 五〇冊 紅葉山文庫旧蔵

(請求番号 特〇二二・〇〇〇六)

編者は、代々南蛮流外科を専門とする幕府の医官栗崎家の医師、栗崎正弘。漢方医学の古典から外科の治療法・薬方が抄出されている。栗崎家は南蛮流外科を以て幕府に仕える家ではあるものの、本書の内容は漢方医学に依っている。『国書分類目録』において「漢方」ではなく「蘭方」と分類された経緯は未詳。

・書誌情報

〔外題〕帙題箋に墨書「外科集成 禮」(①～⑧収納)、「外科集成 樂」

(⑨～⑰収納)、「外科集成 口」(⑱～⑳収納)、「外科集成 御」(㉑～㉓収納)、「外

科集成 書」(㉔～㉖収納)、「外科集成 数」(㉗～㉙収納)

〔内題〕①～⑤〇一才「外科集成卷之一～五十」

〔著者〕①一才「官医瘍科 栗崎道枢正弘編輯」

〔法量〕二九・四×二〇・四糎

〔墨付丁数〕①六六、②四二一、③五二一、④五九、⑤五八、⑥七四、⑦

五二、⑧三六、⑨六四、⑩三六、⑪四四、⑫五四、⑬五一、⑭三三、

⑮四九、⑯六二、⑰五五、⑱四三、⑲六〇、⑳三六、㉑四六、㉒

七〇、㉓五九、㉔四〇、㉕三五、㉖二七、㉗四二、㉘二七、㉙六四、

㉚五五、㉛九一、㉜四五、㉝九八、㉞五九、㉟四一、㊱六二、㊲

四四、㊳五五、㊴六〇、㊵一八、㊶四三、㊷九四、㊸四九、㊹二四、

㊺四九、㊻六四、㊼六七、㊽六五、㊾二六、㊿四六

〔表紙〕黄壁色無地表紙(織)

〔刊記〕①序三ウ「文化十年癸酉子春／侍医法眼兼医学瘍科教諭桂國寶撰」、序五ウ「文化十年癸酉仲春／尾張侍医栗崎尚遵撰」

〔印記〕表紙見返し「日本政府図書」

〔蔵書票等〕帙・表紙蔵書票「太政官文庫／和書門／特別類／三二〇三号／第二十一番函／架／五〇冊」、①表紙朱書き貼紙

「卅一ノ巻 従来欠」

〔刊写〕跋刊

〔その他〕帙あり。帙に朱書き貼紙「輯」「第七十五函」。表紙墨書「共五十」。題箋が剥落した形跡等はなく、元々表紙に表題を付していなかつたものと思われる。版心「修澤舎活板」。

【五四】外科集成 五〇冊 医学館旧蔵

(請求番号 一九五・〇二三〇)

資料の概要については【五二】参照のこと。

印記「躋寿殿書籍記」「医学図書」より、幕府医学館に収納されていたことがわかる。【五三】同様、「漢方」ではなく「蘭方」に分類された経緯は未詳。

・書誌情報

〔外題〕①～⑤〇題箋「外科集成 一～五十」

〔内題〕①～⑤〇一才「外科集成卷之一～五十」

〔著者〕①一才「官医瘍科 栗崎道枢正弘編輯」

〔法量〕一三・三×一六・一糎

〔墨付丁数〕①六〇、②四二一、③五二一、④五九、⑤五八、⑥七三、⑦

五〇、⑧三六、⑨六四、⑩三六、⑪四四、⑫五四、⑬五〇、⑭三三、

⑮四九、⑯六二、⑰五五、⑱四三、⑲五九、⑳三六、㉑四六、㉒

七〇、㉓五九、㉔四一、㉕三五、㉖二七、㉗四二、㉘二七、㉙六四、

㉚五五、㉛九一、㉜四五、㉝九八、㉞五九、㉟四一、㊱六二、㊲

四四、㊳五五、㊴六〇、㊵一八、㊶四三、㊷九五、㊸四九、㊹二四、

㊺四九、㊻六四、㊼六七、㊽六五、㊾二六、㊿四六

〔表紙〕砥粉色無地表紙

〔刊記〕⑤〇後付「文化癸酉仲春／門人三品常道謙拝題／十二歳女春翠書」

〔印記〕①目録一才「躋寿殿書籍記」「医学図書」「日本政府図書」

〔蔵書票等〕表紙蔵書票「和書門／類／二〇七六一号／六〇函／四架／五〇冊」

〔刊写〕跋刊

〔その他〕版心「修澤舎」。①表紙墨書「二二七一八号／五〇冊」

【五五】外科集成 五〇冊 医学館

(請求番号 一九六・〇〇五〇)

資料の概要については【五二】参照のこと。

印記「躋寿殿書籍記」「医学図書」より、幕府医学館に収納されていたことがわかる。また、印記「大学東校」より、明治二年に西洋医学を教授するために設立された医学校(同年二月に大学東校と改称)に引き継がれたことがわかる。

・書誌情報

〔外題〕①～⑤〇墨書打付「外科集成 卷〓五十」

〔内題〕①～⑤〇二才「外科集成卷一〓五十」

〔著者〕①一才「官医瘍科 栗崎道枢正弘編輯」

〔法量〕二九・四×二〇・三糎

〔墨付丁数〕①六六、②四二、③五二、④五九、⑤五八、⑥七四、⑦

五二、⑧三六、⑨六四、⑩三六、⑪四四、⑫五四、⑬五一、⑭三三、

⑮四九、⑯六三、⑰五五、⑱四三、⑲六〇、⑳三六、㉑四六、㉒

七〇、㉓五九、㉔四〇、㉕三五、㉖二七、㉗四二、㉘二七、㉙六四、

㉚五五、㉛九一、㉜四五、㉝九八、㉞五九、㉟四一、㊱六二、㊲

四四、㊳五五、㊴六〇、㊵一八、㊶四三、㊷九五、㊸四九、㊹二四、

㊺四九、㊻六四、㊼六七、㊽六五、㊾二六、㊿四六

〔表紙〕橙色檀紙表紙

〔刊記〕①序二ウ「文化十年癸酉子孟春／侍医法眼兼医学瘍科教諭 桂國

寶撰、序四ウ「文化十年癸酉仲春／尾張侍医栗崎尚遵撰」。⑤後付「文

化癸酉仲春／館林瘍科 栗崎常道謙拜題／十三歳女春翠書」

〔印記〕①序一才「躋寿殿書籍記」「医学図書」「大学東校」「日本政府図書」

「内閣文庫」、②表紙「医学図書(別紙に押印のうえ貼付)」

「蔵書票等」表紙蔵書票「漢書門／類／二二七〇五号／二二函／七架

／五〇冊(主務消印)」

〔刊写〕跋刊

〔その他〕版心「修澤舎活板」。

【五六】外科集成翼方 二冊 医学館旧蔵

(請求番号 一九五・〇二四四)

跋文から南蛮流外科医栗崎道枢正弘の著であることがわかる。

消印の捺された漢書門の蔵書票が貼付されていることから、収蔵当初は漢籍に分類されたものと考えられる。その後、和書に分類された経緯や時期は未詳。

・書誌情報

〔外題〕①②題箋に墨書「活幼方彙 乾・坤」

〔内題〕①一才「外科集成翼方 小児部／活幼方彙」

〔著者〕記載なし

〔法量〕二〇・八×一四・八糎

〔墨付丁数〕①二二七、②二二〇

〔表紙〕金茶色宝尽くし表紙(織)

〔刊記〕②後付「活幼方彙跋」「宣天保十二辛丑季春／侍医法眼瘍科 栗崎道枢正弘識」

〔印記〕序一才「江戸医学蔵書之部」「日本政府図書」「内閣文庫」

「蔵書票等」表紙蔵書票「漢書門／類／二二八二九号／二二函／一四

架／二冊(主務消印)」

【刊写】跋刊

【その他】①一の版心「修澤舎」(二丁以後の版心には無し)

【五七】徽瘡新書 五冊 紅葉山文庫旧蔵

(請求番号 子二六九・〇〇〇七)

プレンク (Joseph Jacob Plenk, 1738-1807) が著した梅毒の治療書を、蘭学者杉田立卿(一七八六—一八四五)が邦訳し、文政四年に刊行したもの。全五巻。

当館で漢籍の子の部に分類される資料に付される「子」の請求番号が、本書に付された理由は未詳。内閣記録局が作成した『和書台帳』八(請求番号 平23公文〇一二九一〇〇)の明治二六年三月二二日の記録分に「番号 二六三三二」として記録されている。それによると「函架 子二六九」「類 古医 (十九) 六一」「備考 貴」。このときに付与された番号が、今日まで引き継がれたものと考えられる。

なお、『内閣文庫図書仮名類別目録和書門』(明治二十三年一月発行)、『内閣文庫図書仮名類別目録漢書門』(同年三月発行)、『内閣文庫和書仮名類別追加目録』(同三五年四月)には記載されていない。

台帳の記載から明治二六年時点では内閣文庫に収められていたことがわかるが、和書でありながら「子」に分類された経緯や、同三五年の『追加目録』に収録されなかった理由は未詳。

・書誌情報

【外題】①⑤題箋「徽瘡新書 一〜五」

【内題】①⑤一才「徽瘡新書卷之一〜五」

【著者】一才「日本 江都 杉田豫立卿 訳述／青地盈林宗 校正」

【法量】二六・八×一七・八糎

【墨付丁数】①二七、②三二、③三七、④二七、⑤三二

【表紙】朽葉色無地表紙

【刊記】①序二ウ「日本文政二年星次己卯臘月／若州侍医 江都 杉田 豫立卿識」、自序二オ「紀元一千七百八十七年／入爾瑪泥亞 郁泄 弗牙谷勃布連吉 撰」

【印記】一オ「秘閣図書之章」「日本政府図書」

【蔵書票等】帙・表紙蔵書票「和書／假子二六九／三六三三二号／共五」(假子二六九)のみ朱書き)

【刊写】跋刊

【その他】帙あり。

【五八】外科新編 五〇冊 紅葉山文庫旧蔵

(請求番号 特〇二一・〇〇〇七)

原著はオランダ人ゲッセル (David van Gesler, 1736-1810) が一七八一年から一七八六年に著した外科学の書。文政九年、幕命を受けた杉田立卿と子の成卿により同書を翻訳。弘化二年(一八四五)に完成した翻訳版を繕写、進献したものが、本書である。

・書誌情報

【外題】①⑦題箋に墨書「外科新編 首・目録上・目録下・巻一〜

四十四」、④⑤「外科新編図 上・中・下」

【内題】③④⑦一才「外科新編卷之一〜四十四」、④⑧「外科新編療具図」

【著者】③④⑦一才「杉田豫立卿奉／台命 訳／男信成卿 校」

【法量】全体二八・六×一九・四糎 ④⑤⑧の図版部分二一・五×一四・四

糴

〔墨付丁数〕①二二、②三八、③三四、④三五、⑤三九、⑥五一、⑦四五、⑧二八、⑨三二、⑩三四、⑪一九、⑫二七、⑬二〇、⑭三三、⑮三八、⑯三七、⑰三七、⑱三九、⑲三二、⑳三五、㉑三五、㉒三八、㉓三六、㉔三〇、㉕三六、㉖三二、㉗四〇、㉘三三、㉙三四、㉚三〇、㉛一九、㉜三〇、㉝三三、㉞三九、㉟三〇、㊱二六、㊲三三、㊳三七、㊴三八、㊵三二、㊶四一、㊷三〇、㊸三三、㊹三三、㊺四四、㊻二七、㊼二八、㊽一五、㊾一五、㊿一六

〔表紙〕焦茶色布目表紙

〔刊記〕①序二才ウ「弘化二年龍在乙巳五月／若狭医員 杉田豫立卿 拜撰」

〔印記〕③表紙見返し「日本政府図書」、④一才「日本政府図書」

〔蔵書票等〕表紙朱書き貼紙「譜」「第七十五函」、表紙蔵書票「太政官 文庫／和書門／特別類／三三〇〇四号／第二十一番函／架／五〇 冊」

〔刊写〕写

〔その他〕表紙墨書「共五十」。④～⑩は、『外科新編図』を別紙に描き貼付したもの。貼付された図についても、陰影が墨の濃淡で表現されていることから、筆写されたものあることがわかる。

【五九】銃創瑣言 一冊 昌平坂学問所旧蔵

(請求番号 一九五・〇三二六)

蘭学者大槻俊斎(一八〇四—一八六二)が、セリウスおよびモストの外科書に記された治療に関する要項を抄訳し、安政元年に刊行したもの。

印記から、本書は、昌平坂学問所から浅草文庫へ、浅草文庫から内閣文

庫へと引き継がれたことがわかる。

・書誌情報

〔外題〕題箋「銃創瑣言 全」

〔内題〕一才「銃創瑣言」

〔著者〕一才「俊斎大槻肇訳述」

〔法量〕二六・七×一八・八糴

〔墨付丁数〕三四

〔表紙〕緑色巾繫ぎ型押し表紙

〔刊記〕扉「嘉永甲寅仲秋新鐫／銃創瑣言／大槻俊斎著」

〔印記〕表紙墨印「新刻納本」「番外書冊」、扉に版元印、序一才「浅草文庫」

「日本政府図書」

〔蔵書票等〕表紙蔵書票「和書門／類／二四九八二号／六七函／一 架／一冊」「医療撰養」「医書 五」〔…〕(内閣文庫蔵書票が上から 貼付されているため判読不能)

〔刊写〕刊

【六〇】外科医法 一八冊 内務省旧蔵

(請求番号 一九五・〇三〇四)

幕末から明治にかけて活動した医師佐藤尚中(一八二七—一八八二)による訳書。本書は、尚中が、長崎留学中にボンベ(Johannes Lydius Cartharius Pompe van Meerdervoort, 1829-1908)から贈られたドイツ人医師ストロマイエル(G. F. L. Stromeyer, 1804-1876)の外科書の蘭訳版を邦訳したもの。全一八冊。慶応元年(一八六五)刊行。

印記から、内務省図書局に収められ、のちに内閣文庫に引き継がれたも

のと推察される。

・書誌情報

〔外題〕①～⑱題箋「外科医法 一～十八」

〔内題〕①～⑱一才「外科医法卷一～十八」

〔著者〕①一才「佐倉 佐藤舜海尚中訳」

〔法量〕二二・四×一五・一糶

〔墨付丁数〕①二七、②六二、③四七、④五三、⑤六一、⑥三九、⑦

三二、⑧六〇、⑨六七、⑩三一、⑪四五、⑫三六、⑬二七、⑭四七、

⑮三五、⑯四四、⑰四〇、⑱三二

〔表紙〕縹色巾繫ぎ地小葵艶出し表紙

〔刊記〕①扉「慶応元乙丑歳仲冬新雕／舜海佐藤尚中訳述／外科医法／

濟衆精舎藏」、③⑥⑨⑫⑮裏表紙見返し「陸軍医部／海軍病院／

医学校 官版御用所／（中略）／書肆 東京馬喰町二丁目 英蘭堂

島村利助」

〔印記〕①扉に版元印・「初編」②「二編」⑦「三編」⑩「四編」⑬「五編」

⑯「六編」、序一才「内務省図書記」「日本政府図書」「図書局文庫」、

②～⑱表紙・一才「内一七七八号」

〔蔵書票等〕表紙蔵書票「衛生局／第二号／仁ノ筐」「乙 内務省図書／

第一一七七八号／和書部医書類／ 函／共十八冊」「和書「…」／

二二「…」／一八冊（内閣文庫の蔵書票が上から貼付されているた

め一部判読不能）」

〔刊写〕刊

〔その他〕③④⑧⑫⑭⑰後付「英蘭堂発兌書目録」。③⑥⑨⑫⑮裏表紙

見返しの刊記中略部分に「拙舗累世書籍ヲ鬻キ近年医書及ヒ翻訳書

ヲ専ニス、都鄙一般医学大家著述シ玉フ所アレバ多クハ拙舗ニ発兌  
ヲ命セラル故ニ海内新刻ノ医書ハ必ス備エテ以テ漏スヲナカラント  
ス、仰願クハ書ヲ求メ玉フノ諸君子高顧アラント」とあり。

【六一】外科医法 九冊（全一八巻のうち九巻のみ） 教部省旧蔵

（請求番号 一九五・〇三〇七）

資料の概要については【六〇】を参照のこと。

印記から、明治二～五年の間に神祇官宣教師に収められ、宣教師廃止と  
ともに教部省の蔵書となり、同一〇年の教部省廃止に伴い内務省に収蔵さ  
れ、同一八年二月内閣制度発足に伴い設けられた内閣文庫に引き継がれ  
たものと推察される。

・書誌情報

〔外題〕①～⑨題箋「外科医法 一～九」

〔内題〕①～⑨一才「外科医法卷一～九」

〔著者〕①一才「佐倉 佐藤舜海尚中訳」

〔法量〕二二・五×一五・一糶

〔墨付丁数〕①二七、②六二、③四六、④四六、⑤六一、⑥四二、⑦

三二、⑧五三、⑨七〇

〔表紙〕縹色巾繫ぎ地小葵艶出し表紙

〔刊記〕①④⑦扉「慶応元乙丑歳仲冬新雕／舜海佐藤尚中訳述／外科医

法／濟衆精舎藏」④扉「二編」⑦扉「三編」、③⑥⑨裏表紙見返し「大

学東校 官版御用所／西洋医書 発兌書林 英蘭堂 東京馬喰町二

丁目 嶋村屋利助」

〔印記〕①扉に版元印。①④⑦「初編」～「三編」、序一才「宣教師」「教

部省文庫印」 「日本政府図書」 「図書局文庫」

「蔵書票等」 ①表紙蔵書票「共九本／百廿八」「和書門／類／

四三三二二号／一三六函／一〇架／九冊」

「刊写」刊

「その他」卷十以降を欠く。③⑥⑨後付に刊行書目あり。

【六一】切断要法 一冊 内務省旧蔵

(請求番号 一九六・〇〇二九)

幕末から明治にかけて活動した医師田代基徳(一徳、一八三九—一八九八)による訳述書。本書は「麻薬編」(クロロホルムを用いた麻酔術)と「手術編」の二編からなる。「麻薬編」はアメリカの外科医グロス(Samuel David Gross, 1805-1884)の『外科全書』が、「手術編」はベルナルドの『外科手術』とリンハルトの『外科新書』が底本となっている。慶応四年刊行。印記から、明治二二年に購入され、内務省図書局に収納されたものと考えられる。

・書誌情報

「外題」題箋「切断要法 完」

「内題」一才「切断要法」

「著者」一才「中津 田代徳子榮 纂輯」

「法量」二二・五×一五・〇糎

「墨付丁数」二五

「表紙」黄檗色巾繫ぎ地に蘭の文字艶出し表紙

「刊記」扉「田代一徳訳述／切断要法／慶応四年戊辰春二月新鐫」、裏

表紙見返し「田代先生訳／切断要法／外科手術／発兌書房 日本橋

通二丁目 山城屋佐兵衛／馬喰町二丁目 島村屋利助」

「印記」扉に版元印、簡題才「明治十二年購求」「日本政府図書」「大日

本帝国図書印」

「蔵書票等」表紙蔵書票「和書門／類／三三三四号／函／架／

一冊」

「刊写」刊

「その他」後付「東京下谷練堀町五十三番地 田代本宅 修文舎／東京

神田鍋町式番地 田代出張 行医堂／同社刊行書目」。

【六三】士官心得外療一斑 一冊 外務省旧蔵

(請求番号 一九五・〇三〇五)

洋学者近藤真琴(誠一郎、一八三一—一八六八)訳述。凡例によると、原書はオランダ海軍士官レースが著した、若年の海軍士官のための心得書各種外傷の応急処置の方法が記されている。慶応四年刊行。

印記「外務省図書記」から、明治二年七月以降に対外交渉を担った外務省の旧蔵書であったことがわかる。外務省が本書を収蔵するに至った理由は未詳。

・書誌情報

「外題」題箋「士官心得外療一斑」

「内題」一才「士官心得外療一斑 海軍必携抄訳」

「著者」扉「慶応戊辰孟秋官許／荷蘭列私氏原本／志摩近藤誠一郎訳／

外療一斑 海軍必携抄訳／攻玉塾蔵」

「法量」一八・〇×一一・九糎

「墨付丁数」四八

〔表紙〕緑色巻雲艶出し表紙

〔刊記〕扉「慶応戊辰孟秋官許／荷蘭列私氏原本／志摩近藤誠一郎訳／

外療一斑 海軍必携抄訳／攻玉塾藏」、裏表紙見返し「官許／東京

書林 小石川大門街 鴈金屋清吉発行」

〔印記〕表紙印「外務省図書記」、序一才「外務省図書記」「日本政府図書、

裏表紙見返し「外務省印信」

〔蔵書票等〕表紙蔵書票「雑書部／六■／第四二九〔…〕／共一〔…〕」「和

書門／類／四三二二四号／二三六函／一〇架／一冊」

〔刊写〕刊

【六四】阿蘭陀中條産書 一冊 医学館旧蔵

(請求番号 一九五・〇〇八七)

一丁ウラの記載によると、本書は、産婦人科医学中條流の医術について  
まとめたもの。

印記「日本政府図書」以外にもう一点印記が確認されるものの、かすれ  
により判読困難な状況となっている。資料後半に「玄碩六十六歳筆」「宗  
句ヨリ玄碩伝今此二写」等の記述が確認されることから、本書は、幕府奥  
医師も務めた眼科医士生玄碩（一七六二―一八四八）による写しの可能性  
が高い。

・書誌情報

〔外題〕題箋に墨書「阿蘭陀中條産書」

〔内題〕一才「阿蘭陀中條産書」

〔著者〕記載なし

〔法量〕二〇・五×一四・〇糎

〔墨付丁数〕五八

〔表紙〕茶色無地表紙（織）

〔刊記〕なし

〔印記〕一才「日本政府図書」「多〔…〕蔵〔…〕」（「多紀氏蔵書印」カ）

〔蔵書票等〕なし

〔刊写〕写

【六五】幼幼精義 三卷一冊 内務省旧蔵

(請求番号 一九五・〇二九五)

ドイツ人医師フーヘラントの著書 *Bemerkung über die natürlichen  
und inoculierten Blattern, verschiedene Kinderkrankheiten,  
1798.* のサクセによる蘭訳版（一八〇二年刊行）を、米沢藩医堀内素堂  
（一八〇一―一八五四）が邦訳し天保一四年に刊行したもの。全七巻。日  
本において最初に刊行された西洋小児科翻訳書として知られる。小児と成  
人とが異なる生理や病理を有していることに言及し、小児科医としての心  
得や治療法が記されている。  
印記および蔵書票から、明治一二年に購入され、内務省衛生局で保管さ  
れたことがわかる。

・書誌情報

〔外題〕題箋「幼幼精義 一二三合本」（「一二三合本」のみ墨書）

〔内題〕一才「幼幼精義卷之一」三

〔著者〕一才「遠西 扶歇蘭度 原本／薩窟設 翻訳／米沢 堀内寛忠  
龍重訳」

〔法量〕二五・八×一七・七糎

〔墨付丁数〕八〇

〔表紙〕焦茶色小葵艶出し表紙

〔刊記〕表紙見返し扉「素堂堀内先生訳／幼幼精義／米沢日涉園藏 青藜閣発兌」

〔印記〕表紙見返し扉に魁星印、版元印「初篇」。序一才「明治十二年購求」

「日本政府図書」「大日本帝国図書印」

〔蔵書票等〕表紙蔵書票「内務省図書／第三三五〇番／部 号／一冊」

「和書門／類／三二六三〇号／函／架／一冊」  
「衛生局／第廿四号／波ノ筐」

〔刊写〕跋刊

〔その他〕不審紙あり。頭注に朱書き、墨書あり。

【六六】婦嬰新説 二冊 教部省旧蔵

(請求番号 一九五・〇二九四)

イギリスの宣教医ホブソン(合信)が、西洋の産科学を紹介するために著した書。全二巻。咸豊八年に上海で刊行。本書は、蘭方医三宅良斎(一八一七—一八六八)が訓点を加え、江戸で翻刻出版したもの。日本における西洋産婦人科学の普及に多大な影響を及ぼした。

印記から、明治二〜五年の間に神祇官宣教師に収められ、宣教師廃止とともに教部省の蔵書となり、同一〇年の教部省廃止に伴い内務省に収蔵され、明治一八年一二月の内閣発足に伴い設けられた内閣文庫に引き継がれたものと推察される。

・書誌情報

〔外題〕①②題箋「婦嬰新説 上・下」

〔内題〕①一才「婦嬰新説」

〔著者〕①一才「英国医士合信氏著 江甯管茂材同撰」

〔法量〕二五・四×一七・一糎

〔墨付丁数〕①四七、②二八

〔表紙〕黄檗色菊唐草に花喰鳥型押し表紙

〔刊記〕①前付一才「咸豊八年新鑄／婦嬰新説／江蘇上海仁濟医館蔵板」、

②裏表紙見返し「桃樹園三宅氏蔵板／老旨館 東都江戸 萬屋兵四郎 発行」

〔印記〕①前付一才「宣教師」「教部省文庫印」「図書局文庫」「三宅氏記(版元印)」、序一才「日本政府図書」

〔蔵書票等〕①表紙蔵書票「共式本／百廿八」「漢書門／類／五六九一号／一二函／一四架／二冊」

〔刊写〕刊

【六七】眼科新書 五冊 昌平坂学問所旧蔵

(請求番号 一九五・〇三二〇)

西洋の眼科学を日本に紹介した最初の出版物。全五冊。プレックが著した眼科書の第二版をオランダ語に訳したものを、宇田川玄真が『泰西眼科全書』として和訳したが、刊行に至らなかった。本書は、杉田立卿による完訳版。文化一二年刊行。刊行当初は『和蘭眼科全書』と題されたが、同年中に『眼科新書』と改められた。

印記から、昌平坂学問所から浅草文庫へ、浅草文庫から内閣文庫へと引き継がれたことがわかる。

・書誌情報

